

・日時	2023 年 5 月 11 日 (木) 10:00~11:00		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	酒井 幹夫
	取締役 兼 上席執行役員	最高財務責任者 CFO	松本 智樹
	上席執行役員	不二製油(株)代表取締役社長	大森 達司
	取締役 兼 上席執行役員	最高経営戦略責任者 CSO	田中 寛之

Q.植物性油脂事業の米州について、米国での事業環境認識及び、2023 年度の増益計画の背景は。

A.米国でのグリーンニューディール政策により、大豆油のバイオディーゼルの用途の増加を背景とした、食用としての南方系油脂の需要拡大は底堅いものの、足元では、インフレの進行や金利上昇などを受けて一部消費に弱さが見られる。

2023 年度の増益計画は、2022 年度赤字だったフジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による好転影響に加え、既存工場であるフジベジタブルオイルでの採算性の改善により、増益を計画している。

Q.ブラマー改善へどのような取り組みを進めているのか。

A.2022 年度よりブラマーの 4 工場の工場別管理体制を開始し、成果が見られている。フィラデルフィアのイーストグリーンビル工場、カナダのキャンベルフォード工場では、業績は回復しており、サンフランシスコのユニオンシティ工場では、生産の安定化が進んでいる。課題であるシカゴ工場には、グループ会社の米州油脂会社からエンジニア幹部、グループ本社からは経営人員を派遣。また、日本人が複数名駐在し、タスクフォースを立ち上げ、生産性の改善に向けた対策を最優先で進めている。2022 年度は厳しい業績ではあったが、カカオ加工設備不良など一過性要因によるものが大きかったと認識している。

Q. 日本事業の、2023 年度減益計画の背景は。

A.2022 年度は、原料価格の高騰や円安を受けて価格改定の浸透を進めた一方、末端商品の量目減や消費者の節約志向の影響もあり当社の販売数量が減少した。2023 年度は、円安の影響や運送費などコスト上昇が続くと見込んではいいるが、足元ではインバウンド需要が回復しており需要取り込みにより改善を進めていきたい。

Q.中長期的な利益成長ドライバーは何か。

A.今期においては、ハラードでの第 2 工場や中国でのクリーム工場などの稼働を計画しており、成長投資の刈り取りが進むとみられる。また、油脂技術や発酵技術の展開により、中国のフィリングや欧州のチョコレートの高付加価値化を推進する。更に、植物性食の拡販に向けた取り組みも実績が出てきており、次期中計の柱の一つとして育成していきたい。

Q.金利上昇による支払利息の増加のリスクや、有利子負債などのバランスシートのリスクをどのように考えているのか。

A.2022 年度期末の有利子負債は約 1,700 億円だが、その多くが日本での借り入れである。海外での借入金に関しては、フジオイルニューオリンズの固定資産譲渡の資金の活用により、短期の有利子負債を中心に返済することで、2023 年度の支払利息は 2022 年度並みを想定している。また、2023 年度は、運転資本の改善、有利子負債の削減によりネット D/E レシオの改善を計画しており、バランスシートのリスクは低いと考えている。

以上